

町を応援、にぎわいを

100キロ超の巨大マグロに

大勢の買い物客

「津鉄」中里駅！秋まつり

町の地域づくり団体「起きて夢見る会」が10月17日(日)、津軽鉄道の津軽中里駅内で秋まつりを行いました。

今年4月には、春まつりを行っている同会。当日は、朝9時から中里駅周辺の清掃活動をボランティアで行い、秋まつりは昼12時から行われました。はじめに同会の夏原謙二会長



があいさつ。飛び入りで行われたスコップ三味線のあと、この日のメインイベント「本マグロの解体ショー」が行われました。

この日に用意されたマグロは、104kgの超大物！町のイベントではおなじみとなっている解体ショーで

すが、これほどの大きいマグロは初めてだそうです。駅舎内は、マグロを買い求める客が黒山の人だかりとなっていて、約500人もの買い物客が訪れたせいか、活気がみなぎっていました。解体されたマグロは、生の切り身はもちろんのこと、マグロを油で揚げた「鮪カツ」としても売られ、大勢



の買い物客が、われ先にと買い求める状態に。商品が出されるとすぐ売れてしまい、マグロの即売会は大入り完売で終わりました。

買い物客の1人は「初めて間近で解体ショーをていねいに見た。あつという間に解体する手さばきがすごい。さすが小泊の人だね」と、解体ショーの見事に舌を巻いていました。

そのほか、海産物や野菜の加工品などが所狭しと売られ、駅周辺は人のざわめきでにぎわっていました。

歴史ロマンを感じる街道に案内板を

小泊地域と外ヶ浜町三厩を結ぶ「みちのく松陰道」に、このほど案内板が立てられ、10月19日(火)に町長室で目録が贈呈されました。

目録贈呈に訪れたのは「吉田松陰・宮部鼎蔵に学ぶ有志一同」代表の柳澤良知氏。三厩側には案内板があるのに、小泊側にはないのは寂しいということから、有志一同が青森ヒバ製の立派な案内板を贈呈してくれました。

みちのく松陰道は、長州の志士・吉田松陰と、熊本藩士の宮部鼎蔵が嘉永5年(1852)に訪れている道で、昭和54年に「みちのく遊歩道」として整備され、平成8年に名称が「みちのく松陰道」と改められて現

在に至っています。

吉田松陰に比べ、宮部鼎蔵はあまりなじみがないかもしれませんが、新撰組が旅館・池田屋を襲撃した事件(池田屋事件)で、襲撃された尊王攘夷派志士として有名な人です。

案内板が立てられた入口はご覧のとおりとなっていて、国道339号線竜泊ラインからは、どこが入口かすぐ分かるようになります。

